



昭和48年
5月号

発行所 東郷町役場
編集人

明るく健やかに

子ども会を育てよう

本町は四十七年度と四十八年度の二年間、県の指定をうけて、本町少年の「健やかな育成をめざして」その対策なり方法の研究をすすめています。特に、自主的な子ども会の育成はどうしたらよいかまた、これを見つめて育てる地域ぐるみの育成の組織はどうしたらよいか、ボイスアウトなどの少年団体の育成にどう取りくんだったらよいかを目標にしています。

三月七日、役場講堂でこの研究の中間公開が開かれ、中野原の吉田力弥さんら四人が事例発表をしました。分科会でも活発な意見が交換されましたが、結局「子ども会は子どもによる子どもの会である」また育成会は「あの子もこの子もみんなの子」の考え方によって、手を出すな、目をはなすな

姿勢で——ということに集約されました。

未来をになう子どもたちの健全育成のためには、学校のみならず家庭や社会が有機的な連けいを保ちながら、それぞれの機能を生かして教育すべきことはいままでもありません。

子どもの主体性・自発性・積極性を育てるための子ども会の育成をめざして、町ぐるみの運動として育成会の充実をはかりたいと思います。

四十八年度の本公開を十二月に開くこととして計画をすすめていますが、「家庭を愛し、青少年を健やかに育てましょう」という町民憲章の実現をめざして、輝くあすの町づくりのためにみなさんのご協力をおねがいします。



○……とじておくと便利です……○

点滴

新茶 いよいよ初夏です。もうこれからは寒いというほどの日はありません。くるくるとヒジの上までまくり上げたブラウスのので、もう日中は半ソデでも……。

▽立春（二月四日）からかぞえて八十八日目、今月二日は「八十八夜」です。女の子どうし二人向いあって手を合わせる「せつせせ」という遊びのテーマソングに歌われた歌……。

夏も近づく八十八夜
野にも山にも若葉が繁る
あれに見ゆるは茶摘みぢや
ないか 茜襪に菅の笠
というきれいに調和した声やさしい動作は、最近あまり見られませんが、新茶のかおりはことしもまためぐりあえました。

▽朝、窓辺や軒先のあたりで鳴く小鳥の声を聞いて目をさまされるかたも多いはずですが、この緑あふれる郷土に小鳥といっしょにいつまでも仲良くくらしで生きたいものです。

ふるさとの山の五月の杉の木に斧振る友のおもかげの見ゆ 牧水

48年度予算

町立病院を改築

総体で9億円の大型化

町政の台所をまかなう昭和四十八年度の町予算が、三月定例町議会で決まりました。

一般会計が六億六千八百六十万円、特別会計が一億一千五百七十四万四千円、病院事業会計が一億四千七百九十三万七千円で、総体で九億三千六百一十一万一千円になりました。

これを前年度の当初予算と比較しますと、一般会計で一億二千九百四十六万六千二百七十三円の増加、特別会計で一千二百七十三万一千円(一〇・〇%)の減少、病院事業会計で八千八百二十九万五千円(一四・八・〇%)の増加となり総体で二億五千二百四十四万二千・四・四%の伸びとなりました。

とくに病院事業関係では、前年度当初予算の二・五倍、一億円をこえる大型予算となりました。これは、ことし病院の改築事業が盛り込まれたことによるものです。なお、特別会計のうち農業共済事業特別会計は、四月一日から日向地区農業共済が発足しましたのでことしから廃止しました。

社会づくり

老人医療費の支給

町民のみんなが、明るく豊かな生活を営むことが町政の理想です。

社会福祉の向上については国や県の保障制度施策に従って町の負担分を計上したほか、戦没者合同慰霊祭など町独自の措置を講じています。特に過疎現象の顕著な本町においては人口の老齢化がすすみ、六十歳以上の人は全体の約一八%にあたります。このことから老人福祉の問題は極めて重要で、老人医療費の支給、ねたきり老人に対する家庭奉仕員、老人クラブ運営補助、老人健康診査などに要する経費を計上しています。

また、町立老人ホーム、町社会

福祉協議会、老人福祉館の運営費も計上しています。

児童福祉は児童憲章の趣旨にもとづき町内すべての子どもの幸せをはかることを基本とし、坪谷と鶴野内の保育所運営費、高松保育園に委託する園免の負担金、児童手当に二百六十人分を計上しています。

母子世帯の生活つなぎ資金を無利子で貸付けます。

町内全世帯分の火災保険料を計上して、万が一不幸にして火災に

道路網の整備

近年生活の広域化と都市化、それに急速なモータリゼーションの進展にもなつて、道路の使命はますます重要なものとなつてきています。

本町の道路現況は一般町道が三路線延長一万二千八百八十、二級

鶴野内に生活改善センター

バランスのとれた衣食住生活をめざして、食と衣にくらべいささかおとれてゐる住の充実をはかるため、簡易耐火構造二階建ての町営住宅十戸を建設します。

鶴野内地区によりよい暮らしをめざして食生活の改善など研修の場としての生活改善センターを建設します。

また、入郷地区で熊山に民間テレビ放送中継施設を設置することになりその負担金を計上しています。十月頃完成の見込みで、都市並の娯楽の提供につとめます。

町民のくらしをおびやかす災害の防止には消防力の充実につとめるほか、消防団員に対する退職報償金を五年以上十五年未満勤務の団員にも町単独で支給します。なお、交通事故等の発生に備えて、日向市と救急業務の応援協定をとりむすぶため委託料を計上しています。

四十七年度から継続事業で行なっている福瀬地区の横瀬、宮ヶ原地区の集落再編モデル事業で、移転住宅や集会所などの建築工費を計上しています。

人づくり

東郷小にプール

町民憲章にも、「家庭を愛し、青少年を健やかに育てよう」とあるように、生涯教育の観点から、あらためて家庭教育、学校教育、社会教育のきつてもきれない深い因果関係を認識して、三位一体の教育振興を目ざしてつとめます。

学校教育では、東郷小学校にプールを建設するほか、小、中学校の教育環境の整備拡充と維持管理

につとめます。昨年度はじめて幼稚園を開設しましたが、ことしは一学級増設し二学級にします。

社会教育では四十七年度に建設した中央公民館の内容充実をはかり、ここを中心により豊かな人づくり、町づくりを理念に、青少年の健全育成と成人教育を重点にとりあげ、各種学級講座を開設します。また、八重原公民館の建設費をはじめ婦人会、青年団、部落公民館など各種団体の強化と育成向上をはかるため、活動および運営費の補助などを行ないます。

社会体育では町民が健康で、文化的な生活を営むためにスポーツを振興し、人間尊重を基盤とした健康的な豊かな町づくりにつとめます。そのためのスポーツの普及啓もうと並んでグラウンドなどの

物づくり

生産基盤の充実

整備につとめるほか、町体育協会の自主的な活動を育成するため組織強化の助成をします。

農林業の振興と発展には生産基盤の充実が基礎になるといふ観点から、国営農用地開発事業の推進、第二次農業構造改善事業の計画作成、追加林業構造改善事業の実施、大型農道、牧水

農業振興費ではみかん予備施設設置費、高能率養蚕経営団地形成事業、桑委縮病防止対策のための防除機械の設置をはじめ各種負担金や補助金を計上しています。

畜産業費では仲深区の新赤松地区に飼料基盤整備事業で橋と牧道を建設し飼料畑を造成します。さらに林間放牧地二十ヶ所に給水施設の工事を計上しています。

農地費では農道舗装費および山村振興特別開発事業で広瀬、立石線の農道改良工事を計上しています。

特別会計 病院事業会計

△国民健康保険事業▽
前年度の当初予算に比べ一九・一%の増になりました。歳出予算増加のおもなものは四十八年一月から老人医療費の全額公費負担が義務づけられたことと療養費の増によるものです。育児手当金を千二百円から千五百円に引き上げました。

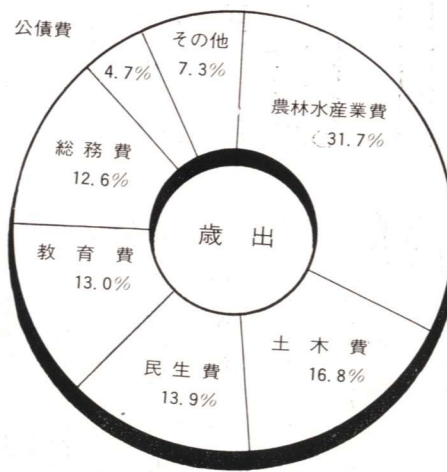
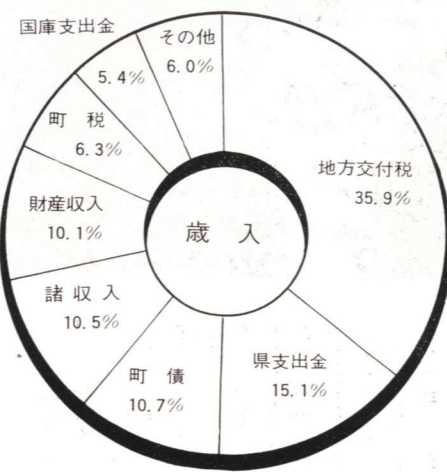
△簡易水道事業▽
福瀬地区に簡易水道施設を新設します。

△病院事業会計▽
「健康でねばり強く働きましょう」の町民憲章を實踐するために町立病院の果たす役割は大きいものがあります。ことし病院を改築し設備の整備充実と財政の健全化に努力し、町民全体が不安のない医療の確保につとめます。

昭和48年度会計別当初予算

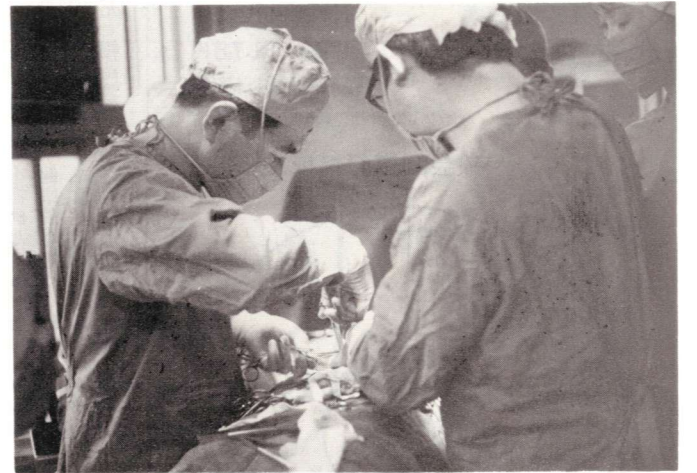
一般会計	6億6,860.0万円
特別会計	1億1,507.4万円
国民健康保険事業	9,855.2万円
簡易水道事業	1,652.2万円
病院事業会計	1億4,793.7万円
合計	9億3,161.1万円

一般会計予算構成比



血液は生命の源

緊急手術に備え献血を



十一月、鶴野内、迫野内、八重原、十二月、田野、羽坂

善意の献血で 少女助かる

患者の手術にはどれだけの血液が必要とされるか、日本輸血学会の資料によると、最大六千ccもの輸血を必要とする大手術（人工心臓）であると、献血者一人一回の採血量は二百ccですので、三十人分に相当する多量の血液が必要となってきます。

ところで、あらかじめ予定されている手術の場合はまず血液の確保があつて手術をはじめますが、事故などによる緊急手術の場合はたいへんです。

ことし二月八日、羽坂の小学四年生の女の子が自転車に乗っていて、誤って転倒、胸部を打撲して肝臓が破裂するという事故が起きました。ただちに町立病院で緊急手術をしました。この患者の全血液量は約千六百ccですが輸血に使った血液は二倍以上の三千五百ccにもなりました。この輸血に使った血液のほとんどは地元の人たちが提供した善意の血液であり、これらの献血がなかったら一命をとりとめることはむずかしかった——と石井院長は話していました。

（この女の子は善意の献血と石井院長以下全職員懸命の治療と看護により、近日中に全快し退院の予定です。）

創作社友全国大会

短歌の同人誌「創作」が牧水先生によって創刊されたのは明治四十三年三月で、以来発刊部数が六十巻（二巻は十二月）になる。これを記念して、全国の社友大会が東郷町で行なわれることになった。「創作」の社友にとって坪谷は聖地であり、今に残る生家、歌碑、記念館はこれらの人たちの一生の中で一度はぜひ訪れたい憧れの地なのである。

随想

「創作」の社友はひとかどの歌人であり、文化人である。同時に、牧水先生を通じて私たちに親しい人たちである。この親しい人たちをあなたかく迎えるとともに、この行事にできるだけ多くの郷土の人も参加し、何としてもこの大会を盛会に終らしたいと思う。

（小野 弘）

五月二日、延岡市のホテルで前夜祭が行なわれ、一行は五月三日に延岡市内の牧水先生ゆかりの地を見学して、午前十一時に坪谷へ来ることになっている。坪谷では午後二時まで「牧水の丘」で記念植樹、生家、歌碑、記念館の見学をし、ついで午後五時まで坪谷中体育館で歌会が開かれる。

翌日は再度坪谷へ行き、坪谷小学校、坪谷神社を見て、坪谷中体育館で講演会が開かれる。午後日向市の現権崎へ行き解散することになっている。が、ほとんどの人が南日向めぐりの旅で宮崎鹿兒島へ向かうことになっている。

血液は人間の生命の源でありながら一般の関心は極めて低いのが現状です。しかし、一度血液の必要が起ったとき、もし提供される血液がなかったらどうなるでしょうか。現在の献血制度が満足してすでに八年になりますが、献血はあくまでも人々の善意にすぎず、その提供こそが唯一の血液確保の道です。

他人ごとのように考えている人がたくさんいますが、万が一不幸にして重大事故が身近に起きたとしたら、これは他人ごとではすまされません。そこで、今年から年間を通じて区別に献血推進の日を決め、町民のみならずいっしょに献血できるように計画しました。具体的には後日お知らせします。ようろしくご協力をお願いします。

五月 寺迫、福瀬、小野田
七月 中深、坪谷、瀬平
九月 越表、下渡川
十月 中央公民館（体育大会）

豊かな生活を求めて 迫野内公民館で研修会

迫野内公民館は自治公民館として郡と町の指定をうけていますが三月二十九日に迫野内公民館で経営研修の状況が公開されました。この研修会は、すべての人が明るく、豊かな生活を求めています。そのために公民館の果たす役割を再認識してもらい、地域のみならず問題解決につとめてほしいとの目的で開いたものです。



花と真ゴイの贈物



老人ホームと老人福祉館に善意の贈り物が届き、おとしよりたちによるこぼれはあります。四月八日に小林市で全国植樹祭がありましたが、このニュースを聞いた大阪に住む宮藤霧枝さんから「花でホームを美しくしてください」と現金が届けられました。ホームではさくそくカスミソウ、百日草、セキチクなどの種子を買い、おとしよりたちの手によって花壇にまかれました。七月から九月にかけて美しい花が見られることでしょう。

また老人福祉館には耳川漁協養魚場から七十匹もある大きな真ゴイ三匹が贈られ、昨年末完成した池に放たれ元気に泳いでいます。

郷土のあゆみ (五)

塩月 儀市

五奈良時代 (一)

奈良に都のおかれた七一〇年から七八四年までの七十五年間を奈良時代と呼び、この時の都を平城京といいました。当時の日向は臼杵、児湯、那珂、宮崎、諸島の五郡で、国府は児湯郡三宅（現在の西都市）にありました。

国府には守、介、椽、目、史生、国博士、国医などの役員がいました。また、この時代は仏教が盛んで、国分寺、国分尼寺が置かれ、国分寺に僧二十人は国分尼寺には尼僧十人がおり、国分寺の国師が宗教関係をつかさどりました。この国分寺と国分尼寺は三宅にありました。

大宝律令の制府により国の下に郡、郡の下に郷があったことは前に記しましたが、本町は臼杵郡に属しました。郡には郡大領、小領、主政、主帖などの役人がいて、これを総称して郡司といいました。郷にも郷司という役人がいて政治を行ないました。

大宝律令の規定によりますと「凡五十戸を一里となす」とあります。里は郷と同じです。戸は戸主によって統べられる一家

の団体ですが、奈良時代の戸には血縁のほかに奴婢なども含んでいましたので、一戸の人数は相当数でした。

臼杵郡はほぼ現在の東西臼杵郡と延岡市、日向市を含む地域で、水上、智保、英多、刈田の四郷でした。智保は高千穂、英多は延岡地方、刈田は門川地方といわれていますが、水上の所在は明らかではありませんが、耳川の上流地方ではないかとの説もありませんが、本町がどれに属したか不明です。

この頃の農民は口分田からの収穫では暮せず、ほかに土地を借りて耕すことが多くなりました。その上、調、租を都まで運ばねばならなかったり、また働き手が工事にかり出されたので農民の中には、こうした苦しい生活からのがれるために故郷を捨てて逃げ出る者があらわれて口分田の荒れる地方が出現し、また一方では人口の増加で口分田が不足する地方がありました。朝廷は大いに開墾を奨めましたが、思うように行かず墾地の私有を認めました。

貴族や社寺、地方の豪族などは人夫を使って墾田をふやしました。これが荘園の起りで、これによって「班田収復の法」は崩壊しはじめました。

お知らせ



講習修了者には町内のみの公認審判員証を交付します。

〔日程〕

◎五月十二日

受付 午後六時より七時まで
開講式 午後七時より七時三十分まで

ルール解説 午後七時三十分より九時三十分まで

（終了後解散）

◎五月十三日

競技技術講習 午前八時三十分より十一時三十分まで

（昼食）
審判技術講習 午後〇時十分より三十分まで

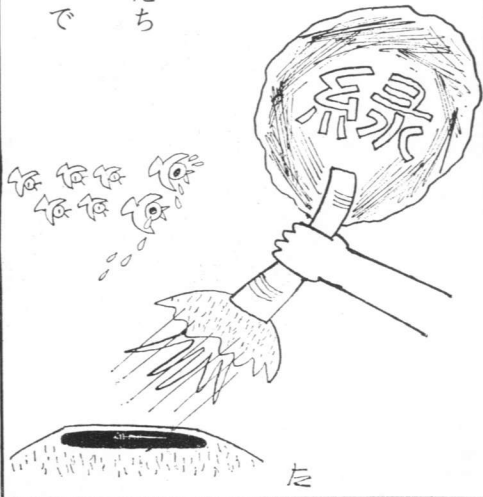
閉講式 午後三時十分より三十分まで

〔場所〕
中央公民館

五月十二日と十三日に県バレーボール協会から講師を招いて実技と審判技術の講習会を開きます。県バレーボール協会が十一月に予定しているB級審判員講習会では、以前に講習を受けていないと資格の取得ができませんので、この機会に受講してください。

緑を大切に

わたしたちの家を奪わないで



〔携行品〕

筆記具、笛、シューズ、昼食
資格取得者は正規の服装

〔申込み〕

五月七日までに町教育委員会事務局へ。受講料は無料

人事の発令

四月一日付で次のとおり職員の変更をいたしました。

▽農林課農業係（同農業共済係）酒井行雄▽同振興係（同）三浦正教▽住民課保険衛生係（農林課振興係）糸平久栄▽総務課庶務係（教育委員会 坪谷中給食婦）甲斐咏子▽国民健康保険病院（新採用）那須シマ子

▽日向地区農業共済組合へ出向（農林課農業共済係長）日高今朝利▽同（農業共済係）畠原孝徳▽教育委員会 東郷幼稚園（住民課保険衛生係）黒木由美子

▽農業共済事業の廃止により農林課農業共済係を廃止▽税務課収納係を固定資産係に変更

五月の検診計画

▽16日―18日 胃ガン検診
▽23日―24日 婦人ガン検診
▽22日 へき地診療（下渡川、越表）

▽23日 “ ” （長崎）
▽24日 三歳児検診（寺迫地区を除く、）
胃ガン検診、婦人ガン検診につ

今月の納税

固定資産税 一期
納期 五月三十一日

いては、後日組合長宛へ申込み書を送りますので、多数受診してください。また、夏の環境衛生のために防疫薬剤の共同購入を実施しますので、共同防除に努めましょう。

香典返し

◆福瀬区の直野萬さんから故岩助さんの忌明けに香典返しとして町社会福祉協議会にご寄付いただきました。

ここに慎んで故人のご冥福をお祈りしますとともに厚くお礼を申し上げます。
東郷町社会福祉協議会

人口

48年3月1日現在
（ ）は対前月比

男 3,417人 (+6)

女 3,695人 (-2)

総数 7,112人 (+4)

世帯数 1,765世帯 (±0)

出生 おめでとう

赤ちゃんの名 父の名 部落

矢野隆博	市坪谷
柳生都代	重統表
黒木安夫	勝行寺
新名幸子	正幸福
三浦輝之	学坪谷
那須輝之	達允小野田

結婚 おめでとう

氏名 部落

海野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野
紀誓	紀誓	紀誓	紀誓	紀誓	紀誓	紀誓	紀誓	紀誓	紀誓
美生	美生	美生	美生	美生	美生	美生	美生	美生	美生
寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺
市坪谷	市坪谷	市坪谷	市坪谷	市坪谷	市坪谷	市坪谷	市坪谷	市坪谷	市坪谷

死亡 ご冥福を祈ります

氏名 年令 部落

谷口義秋	四六	小野田
渡辺ユクエ	七一	鶴野内
平池ユクエ	七四	追野内
小川嬉水	三七	田野



戸籍たより
三月届出分